

「この年齢になつてもフルタイムの仕事に就けるとは思つていなかつた。会社に感謝したい」。元建築会社の建築施工管理技士、三尾實夫さん(68)=中津川市付知町=はおとし4月から、家電や自動車、航空機の部品製造を手掛ける地元の加藤製作所(同市駒場)で働いている。高齢者雇用に積極的な会社で従業員111人のうち「キャリア社員」と呼ぶ60歳以上のシニアは53人。三尾さんは月曜から金曜の平日午前8時から午後5時まで勤務し、キャリア社員の同僚2人とチームを組んで、自社でプレス加工したス

## ふり人口減を生きる

テンレスタンクの洗浄や磨きの作業に携わっている。

1950年1月生まれの三

尾さんは「団塊世代」の最終世代。高校卒業後、県内外の食品会社や飲料会社で働いた

が、長男だったため30代になろに3人の孫がいる。中学2

年と1年、小学5年。長女が年と1年、小学5年。長女が女手一つで育てる。三尾さんは孫の部活動の送り迎えを手伝つたため、7人乗りの乗用車を中古で購入。年金は60歳かくし、会社は定年まで2年残して早期退職した。

子どもは3人。長女のところ

は夫婦2人の年金で十分なんだろうけど、僕の年金だけでは足りない」。65歳を過ぎても現役で働く理由を明かす。

毎月の収入は、年金を1とす

ると会社の給料は1・3。土

日は60歳の時に入った還暦野

球チームの練習や試合で汗を

流す。「毎日仕事をして規則

正しい生活を送り、趣味に打ち込む。理想の生活かな。末

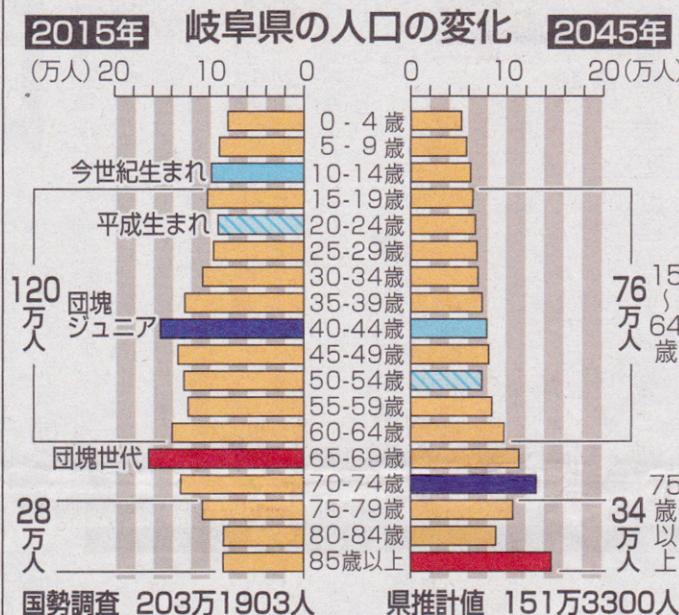
っ子の小5の孫が女の子。花嫁姿を見るまで頑張りたい」

県の推計では、2015年

## 異業種シニアも戦力



ステンレスタンクの洗浄や磨き上げ作業に携わる  
三尾實夫さん=中津川市駒場、加藤製作所



に120万人だった生産年齢人口は45年に6割まで減少。一方で75歳以上は1・2倍に膨らむ。定年後も働きたいシニアは増え、雇用ニーズも拡大するだろう。

加藤製作所は、地元の調査元の職種は公務員、営業職、で働きたいシニアが多くいることを知り、15年以上前に高齢者雇用を始めた。現在のキャリア社員53人の年齢層は、60代から70代後半。もともと

体力よりも、気持ちの若さが大切。当然、会社は将来を担う若い社員が軸になるが、キャリア社員はサポート役として期待。経験から学ぶことも多く、コストパフォーマンスは高い」と効果を話す。

(瀬戸観音)

岐阜労働局によると、県内企業従業員31人以上)の昨年の高齢者雇用状況は、調査対象2669社のうち、70歳以上まで働く企業は前年比1・7%増の767社で約3割を占めた。70歳以上の労働者数は5925人で、2013年の2676人から倍増している。



県内の高齢者雇用